

新型コロナウイルス流行の影響で一時、閑散としていた観光地は現在、大勢の人々で再び賑わいを見せている。

宿泊者数の増加

観光庁の「宿泊旅行統計調査」によると、2024年12月の延べ宿泊者数は5582万人泊となり、新型コロナウイルス前の2019年同月と比べて18.4%増加した【図表1】。日本人に限ると同年同月比6.8%増え4053万人泊であった。一方、外国人は同66.5%増加し1529万人泊と大幅に伸びた。宿泊者数は20年から22年にかけてコロナ禍の影響で減少したものの、23年5月にコロナの感染症分類が2類から5類に変更された後、増加に転じた。特に外国人の増加率が6割超と大きい。その要因の一つが為替の円安進行である。コロナ禍が始まった20年1月は1ドルが109円であったが24年12月は154円になり、この間に約4割も円安に振れた。

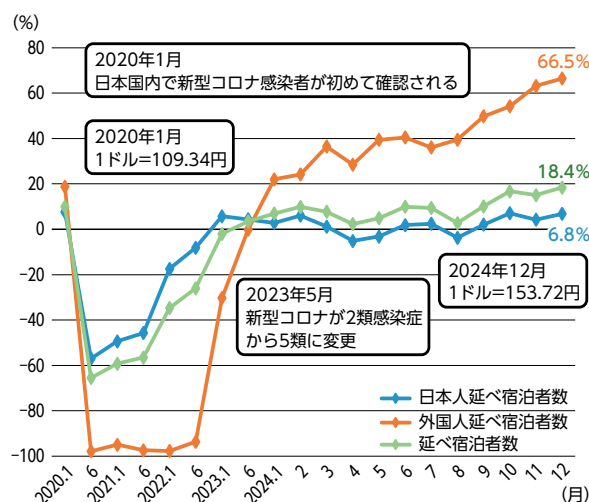
訪日外国人は中国人が最多で19.1%を占め、以下、韓国（13.4%）、台湾（12.7%）の順であった。これらの国・地域の人にとって、日本へは便数が多く【図表2】、時間も2時間程度と利

便性が高いことから人気の旅行先となっている。

訪日外国人の消費金額

観光目的の訪日外国人の消費金額を調べると、イギリスなどの欧米人が多く消費しているが、韓

【図表1】 延べ宿泊者数について2019年同月比の推移



資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成

【図表2】 全国各空港の国際線直行便数

順位	国・地域	便/週
1	韓国	889.5
2	アメリカ	424.5
3	台湾	422
4	香港	240
5	フィリピン	157.5
6	タイ	153
7	ベトナム	152.5
8	中国	151
9	シンガポール	108
10	マレーシア	58
-	その他	374
	合計	3,130

資料：国交省「国際線就航状況（2023年）」より作成
※出発＋到着を1便とカウント
貨物便を除く旅客便のみ集計

【図表3】 訪日1回の1人当たり消費金額（2023年）

国・地域	消費金額 (円)	うち買物代 (円)	うち飲食代 (円)	うち宿泊代 (円)	宿泊日数 (日)
イギリス	373,025	56,153	77,657	165,611	13.7
オーストラリア	359,500	55,525	80,691	146,535	14.0
スペイン	346,703	44,671	82,854	138,801	14.7
フランス	343,891	54,123	74,501	148,768	16.3
イタリア	334,700	39,277	81,834	144,263	12.5
アメリカ	324,610	51,277	72,290	139,797	11.0
中国	285,115	120,246	52,273	78,000	7.5
香港	223,875	69,735	53,085	69,434	6.5
台湾	180,510	64,356	39,361	50,422	5.8
韓国	101,110	26,388	27,726	32,415	3.6
主要20カ国の平均	270,144	59,788	59,044	101,912	10.2
構成比	100.0%	22.1%	21.9%	37.7%	-

資料：観光庁「訪日外国人消費動向調査」より作成
※消費金額について上記記載の項目に加え交通代、娯楽サービス代などがあるため合計額は一致しない

国や台湾からの旅行者は比較的少ない【図表3】。欧米からの旅行者は平均宿泊日数が約2週間と長いことが高額の消費につながっている。一方、中国や香港からの旅行者は買物代が大きい。

中国人旅行者の買物代は大きい品目順に「靴・かばん・革製品」、「化粧品・香水」、「衣類」となっている。これらは主要20カ国の平均でも上位品物であり人気がある【図表4】。「宝石・貴金属」については、主要20カ国では12位とあまり振るわないが、中国では6位と人気がある。

都道府県別の訪問率をみると、最も高いのは東京都（48・6％）、次に大阪府（43・5％）、千葉県（36・1％）など日本の玄関口である主要な国際空港から近い地域が上位を占めている【図表5】。兵庫県は全国10位であるが、6・3％と決して高くない。

また一人当たりの消費金額については、東京都が最多の13・6万円であるのに対し、兵庫県は2・1万円（41位）と少ない。この消費金額は平均宿泊日数と正の相関にあるが（相関係数0・91）、兵庫県は平均宿泊日数が0・8泊（45位）と全国最下位レベルにあることがネックとなり、消費金額の劣位につながっている。

さらに、来訪者の国のばらつきを変動係数（図表5の注を参照）により比較すると、東京都と京都府はいずれも1・00（4位）と小さく、どの国にも偏ることなく分散している。一方、福岡県は韓国人が約5割と偏っており同係数は2・22（43位）と大きい。兵庫県は台湾・中国・韓国を

【図表4】中国人旅行者の買物代の内訳

内訳	中国人		主要20カ国平均	
	(円)	順位	(円)	順位
靴・かばん・革製品	31,094	1	10,613	2
化粧品・香水	21,479	2	4,620	5
衣類	19,831	3	10,964	1
菓子類	8,355	4	7,773	3
医薬品	8,224	5	2,259	9
宝石・貴金属	7,409	6	1,398	12
時計	6,219	7	2,488	7
健康グッズ・トイレタリー	3,679	8	1,147	13
その他食料品・飲料・たばこ	3,326	9	6,088	4
電気製品（デジタルカメラ/PC/家電等）	3,259	10	4,119	6

資料：観光庁「訪日外国人消費動向調査」より作成

兵庫県の状況

【図表5】訪日外国人旅行者の状況（2023年）

（観光・レジャー目的）

訪問地	訪問率 (複数回答)		1人当たり 消費額		平均宿泊数		来訪者の国							
	(%)	順位	(円)	順位	(泊)	順位	【変動係数】 ばらつきの 度合い		アメリカ (%)	中国 (%)	韓国 (%)	台湾 (%)	香港 (%)	
								順位						
東京都	48.6	1	136,150	1	5.0	1	1.00	4	18.3	14.9	12.1	11.4	6.7	
大阪府	43.5	2	84,256	4	3.3	4	1.34	20	7.3	17.2	26.3	14.6	8.5	
千葉県	36.1	3	14,991	46	0.3	46	1.13	8	18.0	12.7	8.1	20.1	4.9	
京都府	33.7	4	44,445	10	2.1	16	1.00	4	18.0	14.5	9.3	14.6	6.2	
福岡県	13.4	5	84,168	5	3.0	5	2.22	43	2.8	7.5	49.9	14.6	12.6	
奈良県	8.9	6	7,663	47	0.2	47	1.25	16	14.9	26.8	8.1	10.5	5.9	
神奈川県	8.3	7	31,522	21	1.4	36	1.20	12	24.5	17.4	7.7	10.9	6.5	
北海道	7.0	8	102,486	3	4.5	2	1.51	24	4.6	7.6	27.0	24.5	10.9	
山梨県	7.0	8	21,404	40	1.0	44	1.25	15	5.9	9.9	3.6	24.9	14.1	
兵庫県	6.3	10	21,080	41	0.8	45	1.30	19	8.0	17.9	15.2	23.8	10.5	

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」、「訪日外国人消費者動向調査」より作成

変動係数：データのばらつき度合いを示す指標。標準偏差を平均値で割った値のことで、値が小さいほどデータがばらけており、大きな偏りがないことを示す。

主要20カ国のシェアをもとに変動係数を算出し、値の小さい都道府県別に順位をつけた。

合わせて5割を超えており、同係数は1・30（19位）と少し偏りがみられる。外国人旅行者数はその国・地域の経済や政治情勢などにより激減するリスクがあるため、国・地域は偏らず分散している方が望ましいと考える。

外国人旅行者の誘客機会の到来

神戸空港に2025年春から国際チャーター便が就航した。この路線の国・地域は韓国（ソウ

ル）、台湾（台北・台中）、中国（上海・南京）である。これらの国・地域から神戸を訪れる旅行者の増加が地域経済の活性化につながるが、特に訪問率や宿泊日数を増やすことが消費額の拡大に直結する重要な課題である。

兵庫県は六甲山や淡路島など豊かな自然環境や姫路城、城崎温泉など観光名所がいくつもあり、さらに全国6位の約570件に上る「国宝・重要文化財」「史跡名勝天然記念物」がある。また大阪・関西万博に合わせて「ひょうごフィールドパビリオン」が開催されている。これは兵庫県への誘客を目的に県内各地を「パビリオン」に見立てた「体験型プログラム」を事業者から募り、兵庫県が認定するもので、例えば姫路市の坊勢島では地元の漁業協同組合が「漁業見学&体験ツアー」を実施している。このようなSDGsを重視した体験型プログラムが約260件と多数ある。

4月から神戸空港の国際化・万博の開催と、外国人の注目を集めるイベントが続き、兵庫県の魅力を海外に発信する好機となっている。外国人旅行者の宿泊日数が少ないという弱点の克服に向け、この機会をうまく捉えて県内各地への周遊を促しその日数を伸ばすことが重要である。同時に兵庫県の多彩な観光資源を有効に活用できるよう、県内各地はお互いの連携を深め外国人旅行者を受け入れる体制作りを加速させねばならない。そして、将来的には神戸空港の就航路線を拡大し、訪日する国・地域を増やしていくことが望まれる。